

RA協議会 第6回年次大会

日時 2020年9月17日 10:00~17:00 . 18日 9:00~17:00



対 象 URA等大学および研究機関の教職員、省庁関係者、助成機関関係者、その他URA業務に関心のある方等

参加費 RA協議会 会 員 5,000円
非会員 20,000円
学 生 3,000円

主 催 リサーチアドミニストレーター協議会

1日目 9月17日 (木)							
10:00-10:20	オープニング						
10:30-12:00	S-1 特別セッションⅠ 日本の研究力強化のための 政策と具体的方策について 松尾 泰樹 (文部科学省文部科学審議官) 磯谷 桂介 (文部科学省科学技術・学術政策研究所)	I-1 ★ 情報過多時代における 市民と大学の距離を近づける 広報戦略 小林 溪太 (信州大学) Ⅰ	J-1 ★ 海外ファンドを活用した 若手研究者の国際化 支援を学ぶ 松岡 信也 (京都大学) Ⅰ	Y-1 非営利団体 セッション 科学技術情報サービスを 活用した研究力強化支援 (国立研究開発法人科学技術 振興機構 (JST))	Y-2 非営利団体 セッション Link to European Funded Grants (EURAXESS Japan)	E-1 ★ 研究基盤のデジタル トランスフォーメー ション (DX) 佐々木隆太 (北海道大学) Ⅱ	
12:00-13:30	休憩						
13:30-15:00	S-2 特別セッションⅡ 大学の研究力強化に資する URA保証制度のあり方について 北野 允 (文部科学省大学技術移転推進室長)	I-2 ★ 大学等におけるブラン ド価値とその向上策について 二歩 裕 (東京農工大学) Ⅰ	J-2 ★ 若手外国人研究者に活 躍してもらうには 中塚 裕子 (奈良先端科学技術大 学院大学) Ⅰ	個人発表 コアタイム①		E-2 ★ 研究力を見える化する システム 本多 啓介 (情報・システム研究 機構) Ⅰ	
15:00-15:15	休憩						
15:15-16:45		Z-1 賛助会員セッション エルゼビア・ジャパン 株式会社	J-3 ★ 研究力強化に向けた URA 組織による国際交 流支援体制の在り方 Marc Hansen (東北大学)	個人発表 コアタイム②		E-3 ★ 社会との共創による新 たな若手研究者支援 モデルの検討 桑田 治 (京都大学)	N-1 参加者ネットワーキン グ：学術変革研究領域 申請を通じた URA の ネットワークの重要性 について
16:45-17:00	休憩						
17:00-17:30	総 会						
18:00-19:30	情報交換会						

2日目 9月18日 (金)							
9:00-10:30		Z-2 ★ 賛助会員セッション クラリベイト	C-1 ★ 自然科学分野での効率性の高い研究力評価法 加藤 英之 (筑波大学) II	H-1 ★ 組織的な産学連携を本格化させる方策とは？ 樋口 隆信 (電気通信大学) II	R-1 ★ 国際専門委員会 セッション： INORMS2021 に向けての国際連携推進 三宅 雅人 (奈良先端科学技術大学院大学)	D-1 ★ 研究者が夢をかなえるために～研究資金獲得+αのスキルアップ 藤松 佳晃 (沖縄科学技術大学院大学) I	N-2 参加者ネットワーキング：学内 ファンド担当者ネットワーキング
10:30-10:45	休憩						
10:45-12:15		A-1 ★ 今、URA に求められる能力を 考える 磯野 靖子 (東京大学) I	F-1 ★ 異分野融合研究プロジェクト における URA の役割について 中野 悦子 (北海道大学) I	H-2 ★ 産学連携を起点とする新たな 研究力強化の方策とは 根本 靖久 (東北大学) II	B-1 ★ オープンサイエンス時代における 研究力強化のあり方を考えるー 研究データ管理について URA は 何ができるか？ー 渡邊 幸佑 (東京都立大学) I	D-2 ★ 間接経費の可視化 大西 将徳 (京都大学)	N-3 参加者ネットワーキング：国際 協力のベネフィットとリスクへ 大学としてのあり方を考える～
12:15-13:45	昼休憩						
13:45-15:15		A-2 ★ URA 機能・産学連携機能の より良い接続のあり方と組織の かたちを再考する 大屋 知子 (大阪大学) II	F-2 ★ "100 人論文" を異分野融合の 加速に活用する 津村 明子 (横浜国立大学) I	G-1 ★ 医工連携の新時代～ビッグ データ、オープンイノベーション 等を活用した新しい研究の潮流 古賀 敦明 (鳥取大学) I	B-2 ★ 契約の管理手法 大部 真紀 (高エネルギー加速器研究機構)	K-1 ★ スキルプログラム 専門委員会 セッション： ポストアワード (研究プロジェクト運営管理) 徳田 加奈 (福井大学)	N-4 参加者ネットワーキング：プログラム によるデータ分析の生産性向上ー Code for Research Administration
15:15-15:30	休憩						
15:30-17:00		A-3 ★ D.I.Y! 未来の研究環境を自ら 設計する研究者たちはどう貢献 するか 仲野 安紗 (京都大学)	F-3 ★ 大学の強みとなるブランド 研究をのばすには！ (仮) 石田貴美子 (同志社大学)	G-2 ★ 国プロ終了後の持続的・自律 的なイノベーション・プラットフォーム 構築のための知財戦略 稲穂 健市 (東北大学) II	B-3 ★ 災害時の URA 活動ー大学の 活動継続のための URA の役割 とは 森下麻紗代 (大阪大学)	K-2 ★ スキルプログラム 専門委員会 セッション： プレアワード 王 鴻香 (長崎大学)	
18:00-19:00	情報交換会						

★：大会終了後に、期間限定で講演部分の一部動画を公開する予定です。

協賛企業



6th RMAN-J Annual Conference 2020

凡例 タイプⅠ：全体概要をカバーするセッション
 タイプⅡ：オンゴーイングの課題をエキスパートが議論するセッション

A	会員セッション (研究機関と URA)	E	会員セッション (研究力分析とその活用)	I	会員セッション (研究広報)	S	特別セッション
B	会員セッション (研究コンプライアンスとリスク管理)	F	会員セッション (研究プロジェクトのマネジメント)	J	会員セッション (国際化推進)	R	国際専門委員会 セッション
C	会員セッション (研究力の強化と評価)	G	会員セッション (知的財産)	K	スキルプログラム専 門委員会セッション	Y	非営利団体 セッション
D	会員セッション (外部資金の獲得)	H	会員セッション (産学官連携)	N	参加者ネットワー キングセッション	Z	賛助会員 セッション

特別セッション	月日	時間		
	9 / 17	10:30-12:00	S-1	特別セッションⅠ／日本の研究力強化のための政策と具体的方策について
		13:30-15:00	S-2	特別セッションⅡ／大学の研究力強化に資するURA質保証制度のあり方について
企業等セッション	月日	時間		
	9 / 17	10:30-12:00	Y-1	非営利団体セッション／科学技術情報サービスを活用した研究力強化支援（国立研究開発法人科学技術振興機構）
			Y-2	非営利団体セッション／Link to European Funded Grants（EURAXESS Japan）
		15:15-16:45	Z-1	賛助会員セッション／エルゼビア・ジャパン株式会社
	9 / 18	9:00-10:30	Z-2	賛助会員セッション／クラリベイト
会員セッション	月日	時間	セッション担当者	タイトル
	9 / 17	10:30-12:00	I-1 小林 溪太（信州大学）	情報過多時代における市民と大学の距離を近づける広報戦略
			J-1 松岡 信也（京都大学）	海外ファンドを活用した若手研究者の国際化支援を学ぶ
			E-1 佐々木隆太（北海道大学）	研究基盤のデジタルトランスフォーメーション (DX)
		13:30-15:00	I-2 二歩 裕（東京農工大学）	大学等におけるブランド価値とその向上策について
			J-2 中塚 裕子（奈良先端科学技術大学院大学）	若手外国人研究者に活躍してもらうには
			E-2 本多 啓介（情報・システム研究機構）	研究力を見える化するシステム
		15:15-16:45	J-3 Marc Hansen（東北大学）	研究力強化に向けた URA 組織による国際交流支援体制の在り方
			E-3 桑田 治（京都大学）	社会との共創による新たな若手研究者支援 モデルの検討
			N-1	参加者ネットワーキング：学術変革研究領域申請を通じた URA のネットワークの重要性について
		9:00-10:30	C-1 加藤 英之（筑波大学）	自然科学分野での効率性の高い研究力評価法
			H-1 樋口 隆信（電気通信大学）	組織的な産学連携を本格化させる方策とは？
			R-1	国際専門委員会セッション
			D-1 藤松 佳晃（沖縄科学技術大学院大学）	研究者が夢をかなえるために～研究資金獲得＋αのスキルアップ
			N-2	参加者ネットワーキング：学内ファンド担当者ネットワーキング
	9 / 18	10:45-12:15	A-1 磯野 靖子（東京大学）	今、URA に求められる能力を考える
			F-1 中野 悦子（北海道大学）	異分野融合研究プロジェクトにおける URA の役割について考える
			H-2 根本 靖久（東北大学）	産学連携を起点とする新たな研究力強化の方策とは
			B-1 渡邊 幸佑（東京都立大学）	オープンサイエンス時代における研究力強化のあり方を考えるー研究データ管理について URA は何ができるか？ー
			D-2 大西 将徳（京都大学）	間接経費の可視化
			N-3	参加者ネットワーキング：国際協力のベネフィットとリスク～大学としてのあり方を考える～
		13:45-15:15	A-2 大屋 知子（大阪大学）	URA 機能・産学連携機能のより良い接続のあり方と組織のかたちを再考する
			F-2 津村 明子（横浜国立大学）	"100 人論文" を異分野融合の加速に活用する
			G-1 古賀 敦朗（鳥取大学）	医工連携の新時代～ビッグデータ、オープンイノベーション等を活用した新しい研究の潮流
			B-2 大部 真紀（高エネルギー加速器研究機構）	契約の管理手法
			K-1	スキルプログラム専門委員会セッション
			N-4	参加者ネットワーキング：プログラミングによるデータ分析の生産性向上ー Code for Research Administration
		15:30-17:00	A-3 仲野 安紗（京都大学）	D.I.Y! 未来の研究環境を自ら設計する研究者たちにどう貢献するか
			F-3 石田貴美子（同志社大学）	大学の強みとなるブランド研究をのばすには！（仮）
			G-2 稲穂 健市（東北大学）	国プロ終了後の持続的・自律的なイノベーション・プラットフォーム構築のための知財戦略
			B-3 森下麻紗代（大阪大学）	災害時の URA 活動ー大学の活動継続のための URA の役割とは
			K-2	スキルプログラム専門委員会セッション
				プレアワード

● 個人発表の内容につきましては、大会ホームページに公開されています。

RA協議会総会

2020年9月17日（木） 17:00～17:30

情報交換会のご案内

2020年9月17日（木） 18:00～19:30

2020年9月18日（金） 18:00～19:00

年次大会参加登録

参加登録ウェブページ

<https://www.rman-member.jp/>

上記より参加登録をお願いいたします。詳細はウェブページをご覧ください。
参加登録期限は、2020年9月4日（金）です。

※ 参加費はクレジットカード払いのみです。

●お問合せ先

第6回 RA協議会年次大会実行委員会事務局

E-mail 6thrman_j@adm.kanazawa-u.ac.jp HP <http://www.rman.jp/meetings2020/>